

## 7月のねらい及び今月の各クラスの自己評価・自己評価を踏まえての改善点・保護者と地域への子育て支援

月のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな夏ならではの遊びに関心を持つ。(水遊び、色水遊び、プール遊びなど。)</li> <li>暑い時期の生活の仕方を身につける。(木陰で遊ぶ、水分補給、汗を拭くなど。)</li> </ul>
-------	--

クラス名	年長児(さくら組)	年中児(うめ組)	年少児(たんぽぽ組)
自己評価	暑い日が続いたこともあり、プール遊びをたくさん行なうことが出来た。遊び方がマンネリになってしまったため、変化のある遊びも考えて行けたらと思う。事故や怪我無く過ごせたので良かった。太鼓練習が本格的になり、子どもたちの手本となるよう自分自身声を大きく出したり、動きも大きくなりやすくなっている。いろいろな活動に意欲をもって取り組めるよう一人一人の良い部分をみつけてたくさん褒めて伸ばしてあげたい。	プール遊びに泥んこ遊びと前半は夏らしい遊びを楽しむ事が出来た。後半は天気は思わしくなかったり、感染症の水中感染を恐れ、運土遊びを多く取り入れる。興味を示し、取り組むが出来ないと諦めてしまう姿も見られるので興味を示したことを褒め、出来なくても楽しい、どうやったら出来るようになるのか一緒に考えながら楽しんでいきたい。	・プール遊びでは子どもの姿や成長段階に寄り添いながら活動の内容や道具を準備していった。ワニ泳ぎが得意な子どもが多く、積極的に動きを取り入れたり水に顔を付けるという次の段階に少しずつ挑戦したりと前向きに楽しめるように工夫していった。また、子ども自身が自分でやってみたいと行動し出来た達成感を得ることで自信を持って過ごす姿が見られるようになってきた。
自己評価を踏まえての改善点	・マンネリ気味な遊びも、言葉掛けやアイテム選びで改善していく。一人一人の良い部分や頑張っている姿を認め、そこから今まで以上の関係性を築いていくようにしていく。今後の活動や行事にスムーズに取り組めるような活動にもっていく。	ルールや約束事が生活に慣れればなれるほど曖昧になってしまっている。保育者自身も約束事やルールに対しての思いを改め、一緒に守る、子どもとの小さな約束でも守る姿を見せていく、さらに信頼関係を深めていきたい。	・プール遊びに対する意欲が高くテンションが高くなり指示通りにいくと感じることがある為、興味を引く言葉掛けや活動の展開の仕方を試行錯誤していきたい。 ・子ども自身が出来た事を喜び達成感が得られるように一人一人の成長段階に合わせて十分に褒めていきたい。
保護者と地域への子育て支援	引き続き体調管理に気を付けながら、早期に対応できるようお帳面や口頭で伝えていく。汗をかいた時には着替えをするため、着替えの補充をお願いする。伸びてきた所、頑張っている姿をお帳面等でお知らせし、成長を感じながら家庭と一緒に就学に向けて見守っていけるようにする。	気温の高さや、湿度の高さから体調を崩す子も見られるので、体調の変化にも気をつけ、家庭との連携を図っていく。	・プールチェック表や連絡帳を通して子どもの体調を共有し、健康に過ごせるようにやりとりをしていった。 ・園での成長した面や気になる姿について家庭での関わりや過ごし方を聞くことで安心感や喜びを感じながら、子育てに向き合えるように丁寧に関わるように意識していった。
クラス名	2歳児(すみれ組)	1歳児(ふたば組)	0歳児(つぼみ組)
自己評価	・天気の良い日は水遊びを楽しんでいた。着替えの手順や約束事を保育教諭がやって見せながら子ども達と確認をすることで、かごを出して衣服を脱いだり、片付けたり自分でやってみようとする姿が見られる。タライやビニールプールに入り、全身水に触れる事を喜ぶ。コップやペットボトルを用意しておくと、水を汲んだり、コップからコップへと水を入れ替えることを楽しむ姿が見られる。	・夏ならではの水遊びを楽しむ事ができた。初めは苦手意識がある子もいたので、無理に誘わず、周りの友達や保育者の楽しそうな姿を見たり、ゆっくりと関わらん様子をみていく。その事で少しずつ慣れて友達と一緒に遊ぶ姿も見られていた。 ・月の後半から発熱、咳、鼻水の症状が増えている。細目に水分補給や検温を行う事でクラスでは広まる事なく過ごす事ができた。	・水を見せる、室内で水遊びをするなど、導入を工夫し、ほとんどの子がプールでの水遊びを楽しむことができた。 ・成長・発達に伴って動きに幅が出てきており、食卓椅子からの転落、ポールプールの柵からの転倒など危険が予想される動きが増えてきた。気付いた時に職員間で声を掛け合い、テーブルと椅子に移行したり、柵を撤去したりして対応している。
自己評価を踏まえての改善点	・水遊び後は着替え終わった子に目を掛けながら、次に入ってくる子を対応したりで保育教諭の動きがバタつきがちなので、水遊び後は落ち着いてゆっくり遊べるような環境を整えながら怪我や事故に気を付けて声を掛け合って過ごしていきたい。	・水遊びは0歳児と連携しながら合同で行う時とそれを行なう時と対応する事でそれぞれがゆっくりと水遊びを楽しむ事ができている。今後も声を掛け合いながら一人一人の体調を十分に注意しながら活動を設定していきたいと思う。	・後半は体調を崩す子が多く、雨天が続いたことも相まって水遊びや水遊びができない日が続いた。来月は、様々な感触遊びを取り入れていく。 ・危険が予測される動きが増えてきたが、興味・関心が広がっているとも言える。子どもの姿から、マット遊びを多く取り入れているが、同じ遊びになりやすいため、変化をつけていきたい。
保護者と地域への子育て支援	・体調の変化(咳・鼻水の子が増える)や、嬉しい姿、気になる姿などを伝えていく。	・水遊びカードの記入のお願いをする。 ・お帳面や口頭で体調の様子を伝え、家庭と一緒に体調管理に気を付けていく。	家庭から、食事の食べさせ方や動きが活発になってきた子への対応など、質問や相談が多くなってきてる。園での様子や目指す姿を伝えながら、楽しい雰囲気で対応することの良さや、遊びを取り入れた関わり方など、子どもの意欲を引き出すような援助を伝えている。